

山岳友の会会報

2024年4月 第51号



恵那峡 撮影：渡邊 修

もくじ

第68回現地研修会（美ヶ原）	報告 西尾 治	2
第67回現地研修会（下呂温泉）	報告2 梶澤 義継	4
	報告3 渡邊 修	5
2024年度通常総会・第24回憧憬の森講演会		
	報告 小林 久雄	12
追悼 立花 裕美子さん	渡邊 修	13
2024年度通常総会資料		15

『美ヶ原 冬空満喫ツアー』に参加して（雑感）

—第 68 回現地研修会（美ヶ原）報告—

西尾 治

期日：2024 年 1 月 24(水)～25 日(木) 参加者：15 名



この美ヶ原研修は、コロナ禍のための中止や昨年度は宿泊先の都合で日帰り登山となるなどを経てやっと、最近超人気となっている美ヶ原王ヶ頭ホテルに宿泊できるということで大変楽しみにしていた方が多かったと思います。

松本盆地在住の私にとって美ヶ原は、去年の現地研修を含めほとんど日帰りですが、唯一、小学生の学校登山で当時「美ヶ原高原荘」と云っていた「美ヶ原王ヶ頭ホテル(平成 11 年の大改装の際改名したようです。)」に宿泊した記憶がありましたが、泊りはそれ以来。60 年余り前の高原いっぱい広がる星空とご来光の思い出がよみがえるかと期待をはせての参加でした。併せて私にとっては登山という言葉は初めて使った場所でもあり、登山はいつからと問われればこれが最初、経験の数、技術・知識は別として、経歴だけは長い登山のスタート地点でもあり、ここでの宿泊は感慨深い(大げさですが)思い出の場所でもありました。

さて、前置きが長くなりましたが、現地ホテル集合までは、松本駅と美鈴湖からの送迎バス組(6 名)と三城からの冬山登山組(9 名)でした。私は、登山組のひとりです。三城からの登山道は、朝方までの降雪が適度な積雪となり、チェーンアイゼンも程よく効き、風もほとんどない状態で順調に登行を進め、2 時間半ほどでちょうどお昼に、ホテルに到着しました。

バス組のうち 6 人はすでに到着しており、ラウンジの奥を陣取り、ウエルカム宴会の準備真っ最中。ホテル従業員にすっかり切り切っている高岡さんにアルコールの注文と給仕をしていただき、チェックインまでの 2 時間余りを、いつものようにアルコールと話に花が咲きました。

昼の真ただ中でも大きな窓越しに美ヶ原の雪原を眺めながら、やっぱりアルコールは進みます。会長ご持参のワインにめったに飲めない宮坂醸造の“夢殿”。ラウンジでの持ち込み飲酒で、少しはホテル側に気を使いつつ備え付けの紙コップを使っていましたが、“夢殿”には、カウンターのグラスで乾杯。昔でいう二級酒に比べ、下戸気味の私にもその違いがわかりました。缶ビール 1 ダースを担ぎ上げてくれた粟澤さん、一升瓶を担ぎ上げてくれた澤田さんにもごちそうさまでした。



このホテルでは、様々なイベントを催しており、15 時から雪上車体験乗車がありました。

ラウンジで飲んでいるときに、これに参加をするなら、雪上車の揺れが激しいので酔いが回るから飲みすぎないようにという忠告もありましたが、時既に遅し。いざ乗車してみると音は騒々しかったものの、粉雪舞う真っ白な雪原を、美しの塔までの往復 30 分余りを体験してきました。乗り心地は快適とは言わないまでも、歩かず労せず移動できるというのは南極観測などでは、重要な乗り物であることをあらためて感じました。

この体験乗車は、参加者が少なかったのですが、皆さん夕食までの間、展望風呂と引き続きアルコールを楽しんでいたようです。

午後からは、いっそう雲が低くなりこのホテル一番の売り、展望風呂からの眺めは、十分堪能することはできませんでしたが、それでも湯船につかりながらの眺めは気分がいいですね。

夜の星空を期待している身としては、今夜の天気が気になるところでしたが、気象データをこのホテルまで来ても分析している気象予報士の粟澤さんによれば、次第に雲が切れてくる時間がありそうで、翌日の朝も期待できそうとのこと。

そうこうしているうちに、夕食の時間が近づいてきました。その前にロビーでは、ウエルカム

ドリンクサービスでスパークリングワイン、甘酒、アップルジュースが用意されていて、まずはディナー前酒で舌慣らし。ディナーは、ホテル従業員になり切っている高岡さんよれば、とにかく量が多いとの一言。これは、味を楽しむために飲むなということか、飲んでばかりいると食べられないということの忠告なのか、そのアナウンスにもめげず、タブレットで各々アルコールを注文。白樺樹液の食前酒に始まり、前菜、ヤマメの塩焼き、信州牛のステーキ、デザートと次々に料理が運ばれてきました。まさか私が、報告書を書くとは思わなかったので、この献立を詳細に記録しておらず、皆さんにお伝え出来ないのは残念です。美味しかったものがたくさん出てきたことは確かです。心なしか、皆さんいつもよりアルコールが少なめであったのではないのでしょうか。この宴席では、食事のお世話をして下さった彼女と、ベトナム出身の彼、それに写真を撮り続けている彼とも話が弾み楽しいひとときでした。翌日の下山途中、記念のシャッターを切ってくれた彼に、車の中から声を掛けられました。よほど私たちの印象が強かったのでしょうか。このディナーの話が偽りであるかどうか疑問の方は、ぜひ当ホテルにお出かけ下さい。



夕食の後も部屋では、一人気持ちよく睡魔に襲われている人をよそ目に、9時半までアルコールが続きました。



そのあと、一人寒空の中を栗澤さんの言葉を信じ、星空の観察に行きましたが、雲が切れ冬の星座オリオンの輝きを写真に収めようとシャッターを切るものの、寒さに耐えきれず、撤退でした。冬の写真は、やはりそれなりの準備と覚悟が必要なことをあらためて認識したところです。前夜にめげず、翌朝は5時から屋上テラスに陣取り、天頂の北斗七星、夜明け前トワイライト、ご来光を見ることができました。特に時間とともにその光が高原の雪原を輝かせていく姿は印象的でした。こんな変化する姿を写真に収めたいものですが写真センスがないだけに記憶の中にとどめることとしました。



夕食に劣らぬ朝食をいただき、早め下山の鈴木先生、栗澤さんと別れ、登山組7名は、バス組の面々を残し、9時にホテルを離れ、王ヶ鼻経由の下山を開始しました。前日と異なり、時折雲が流れるものの太陽の光が降り注ぎ、昨晚降った雪も結構積もり高原も新雪の真っ白な世界に変わり、人工物であるテレビ塔と自然が作り出した樹氷は妙に調和し、これぞ「美ヶ原の冬景色」を醸し出していました。王ヶ鼻では、強い冬型で北アルプスの山々は厚い雲に覆われていたものの、眼下はるかに松本の街並みの眺め、松本駅前通りから見上げると同様にこの嶺の際立った高さを肌に感じました。下山は、景色を楽しみながら下ったので(それは私だけで、みんなの足をひっぱったか?)登りより時間を要したものの、これまた前日同様12時に三城登山口まで無事下山しました。



この時間には、空はすっかり晴れ渡り、八ヶ岳ブルーならぬ美ヶ原ブルーが広がっていました。

研修のオチは、乗り換え場所の山辺ワイナリーが定休日入り口が閉鎖されており、マイカーが駐車場内に閉じ込められていたこと。それでも車幅ぎりぎりのわき道をすり抜け、脱出できました。これもいい教訓。ピンチヒッター参加の滝沢義夫さんそしてほかご参加の皆様、お疲れ様でした。

今回も楽しい研修ありがとうございました。

第67回現地研修会

「恵那峡と高山を巡る下呂温泉の旅」報告

その2

梶澤 義継



日 程:2023年11月8日(水)～11月9日(木)

参加者:12名

行 程:11月8日 松本駅～馬籠宿～恵那峡～下呂温泉合掌村～下呂温泉(泊)
11月9日 下呂温泉～高山陣屋～高山祭屋台会館～松本駅

報告の内容は主に見学地について報告します。

【1日目】

松本駅を出発し途中乗車しながら12名で出発。参加者全員揃ったところでバス後方のサロン席に全員集まり歓談しながら馬籠宿へ。

馬籠宿は中山道43番目の宿場町(木曾11宿の一つ)、島崎藤村の生誕地で石畳の敷かれた坂に沿う宿場の町並みや土産品を見て回りました。

澤田さんから源義仲(木曾義仲)の異母妹・菊姫が源頼朝から領地として賜り、兄の義仲を弔うため法明寺という尼寺で暮らしていたと伝わりその跡地が存在するとのことでした。

ついで、2箇所目は恵那峡です。目的地に近づくと恵那峡ワンダーランドの観覧車が見えてきました。今回はダムにより貯められた湖面を遊覧船で約1時間かけて、屏風岩、軍艦岩、獅子岩、鏡岩などの奇岩を見ました。

3箇所目は、下呂市にある下呂合掌村へ。白川郷などから移築した10棟の合掌家屋集落で、日本の原風景を再現した合掌の里です。

里には「合掌の里」と「歳時記の森」の2つのゾーンで構成されていますが、今回は「合掌の里」を中心に農具や民具などを展示する民俗資料館や円空が彫った生涯12万体の仏像の一部を展示する円空館の施設を見ました。

今回の現地研修の宿泊地である下呂温泉は、室町時代から有馬温泉や草津温泉とともに「三名泉」と称され、美容液のような無色透明のやわらかな湯が多くの人たちの支持を得ている温泉地です。

下呂温泉には多くの温泉施設がありますが、個人的には「みのり荘」の湯は特に肌がツルツルします。また、「湯ノ島館」は木造三階建てで、登録有形文化財に指定された趣のある温泉宿です。日帰り入浴も可能で、「湯めぐり手形」を購入すると3か所の温泉施設を利用でき、使用期限は6か月間ですから試してはいかがでしょうか。

宿泊は「小川屋」となりましたが、夕食は少し離れた「里の味 せん田」(飛騨牛まぶし丼が名物)で舌つつみをうった後、二次会は「スナック愛」へ移動しました。「せん田」は水曜日が休業でしたが、スナック愛のご主人を通じて開店していただきました。(ありがとうございました。)二次会ではカラオケを歌うなど楽しいひと時でした。

【2日目】

下呂温泉から高山市へ移動し、江戸幕府が飛騨を直轄領として管理するために設置して役所であった高山陣屋へ向かいました。

表門を過ぎて玄関の間へ入ると二間半の青海波(せいがいは)が迎えてくれます。

高山陣屋は代官・郡代やその部下が仕事をする「執務空間」、代官・郡代とその家族らが生活する「居住空間」、年貢米を貯蔵する「米蔵」の3つで構成されており、それぞれの施設を見学しました。

ついで、高山祭屋台会館へ行き高山祭で使用されている山車(秋の高山祭屋台全 11 台)のうち、常時 4 台展示(四か月ごとに入れ替え)へ行き、旦那衆と呼ばれた豪商たちが飛騨の匠の流れを汲む工匠たちに技を競わせた山車の装飾を見学しました。

【写真：渡邊 修】

第 67 回現地研修会「恵那峡と高山を巡る下呂温泉の旅」報告 その 3

渡邊 修

令和 5 年度の現地研修会も回を重ね早 6 回目となりました。今回はご案内にありました通り相澤、私渡邊がかつて勤務した管内特に「夜の下呂温泉の楽しみ方？」を案内する研修会でした。

初日は日本を代表する文豪島崎藤村の故郷、元長野県山口村の「馬籠宿：まごめじゆく」現在は岐阜県中津川市山口馬籠宿を歩き、恵那峡の湖畔で豪華な昼食をいただき遊覧船に乗り、紅葉を愛で下呂温泉合掌村を見学した後温泉宿に向かいます。

江戸時代の儒学者、林羅山は下呂温泉を「天下の三名泉」と称しました。(草津：群馬県草津町、有馬：兵庫県神戸市、下呂：岐阜県下呂市の一つに数えられております。)

名湯下呂温泉は薬師如来が傷ついた一羽の白鷺に姿を変え、飛騨川で傷を癒し、源泉の場所を村人に知らせたと伝えられています。無色透明でほんのりとした湯の香りがあり、実になめらかな肌触りの温泉です。入浴すると身体が大変温まるので血行が良くなり、疲労回復や健康増進に効果があるため「健康の湯」と言われています。また pH 値 9 以上というアルカリ性特有の石鹸効果によりツルツルした肌触り(たまご肌)になると言われ別名「美人の湯」とも呼ばれています。美人の方は益々磨きが掛かりより一層美人に、そうでない方は其れなりの美人になると言われています。本日も参加 4 名の女性は勿論、お世辞抜きに前者であることに疑う余地はありません。

近年、国内はもとより海外の多くの観光客が、昇龍道(ドラゴンルート)と呼ばれる中部地方の愛知県～岐阜県～富山県～石川県を南から北へと縦断する新しい旅の観光ルートとして脚光をあびています。

(能登半島の形を龍の頭に見立ててこの地域が神秘的な昇り龍の様に見えることからこの名前がつけました。)

相澤さんもこの下呂の地で 2 年間所長として勤務されて毎日が温泉三昧？だったことからご覧の通り今でもツルツルのたまご肌？です…！そんな名湯下呂温泉でゆっくりと汗を流し、なんとホテルでの夕食を取り止めてまで、高級料亭「味の里 せん田」にて夕食会、二次会は当会の現地研修会始まって以来初となる「スナック愛」(平成 24 年准フォレスト研修時にほぼ毎晩お世話になったスナック)にてカラオケ三昧…、2 日目は飛騨高山市へ向かい「高山陣屋」、「屋台会館」を見学した後、2015 年 8 月第 21 回現地研修会「霊峰白山と氷見を巡る旅」の帰りに立ち寄り昼食を取った(私たちのグループは飛騨牛の焼肉に生ビールで随分盛り上がりましたが、バスに戻り聞いた話では昼食を食べられなかった会員もいたとか…?)飛騨を代表する飛騨牛の名店「丸明(まるあき)」での飛騨牛 A5(肉の最上級)の豪華昼食です。今回の現地研修会は 2011 年の会発足以来、なんと！…初めて山に登らない研修会となりました。少々前置きが長くなりましたが…楽しかった現地研修会を報告させていただきます。

初日 11 月 8 日(水曜日)天候：快晴

木曾組(澤田、高岡、渡邊)は、木曾町福島で今か今かと首を長くして待っているであろう高岡ゆりさんをピックアップするため、澤田車で 6 時 50 分王滝村を出発。木曾町には 30 分ほどで到着。お化粧？のためか暫く車内で待つこと…？分。何処のクラブ or スナックのママ

かと見間違えるほどの妖艶な貴女(ゆりさん)が登場！荷物を積み込み国道 19・361 号線を北上し権兵衛峠を越えピックアップしてもらった中央道小黒川PAと向かいました。

余談ですが 2006 年(平成 18 年)2 月 4 日、12 年もの歳月を掛けて待望の伊那谷と木曾谷を結ぶ伊那木曾連絡道路「権兵衛トンネル(4470m)」が開通しました。その他にも姥神トンネル(1826m)、羽瀨トンネル(200m)、番所トンネル(828m)があります。

それまでは伊那市方面に行くには①木曾～西箕輪与地～伊那市川北町(所要時間 1 時間 30 分、冬季通行止め)②木曾～塩尻～善知鳥(うとう)峠(所要時間 2 時間超)③木曾～贄川～辰野(牛首峠回り)(所要時間 2 時間超、道路が狭い上に冬季通行止め)であったため木曾から伊那市方面への通勤は困難でしたが、現在では 4 つのトンネルのお陰で通勤する者が殆どで峠を越えるのに 30 分、王滝村からも僅か1時間程度で伊那市に行けるようになりました。利便性が高くなったことから、買い物をはじめ文化交流等も随分盛んになりました。開通翌日には予想をはるかに超える 11,358 台が通行したことからも解るように今では R19 号線と R153 号線を結ぶ重要な生活用、産業用道路として位置づけられています。無料とは本当に有難い限りです。

峠の途中、車内で飲む冷えたビールがあるのか心配になり、久雄さんに電話。「冷えたビールは十分あるよ！」とのことでしたが、途中のコンビニで自分好みの缶ビールにウィスキー(角瓶)、氷等を購入して小黒川 PA でバスを待ちました。暫くすると何時もの見慣れたオレンジ色のひと際目立つ朝日観光バスが到着し、荷物をトランクルームに積み込み乗車。久雄さんから「何処の組の親分と姉御さんだね？」と暖かく有難いお出迎えのお言葉をいただき、360 度どこから見ても品行方正(ひんこうほうせいではなく敢えて**ひんこうほうまさ**と読んでください。)立派な山小屋のオーナーと真っ当な国家公務員に向かってなんと失礼な…と思いつつ、冷えたビールを受け取り座席につくなり間髪入れずに「プシュッ！」早速乾杯！参加者全員が揃って楽しく賑やかな車内での宴が始まりました。松本から小黒川 PA 迄 45 分ほど。皆さん既にアルコールが入っており、天気も良いせいいか何時になく上機嫌の様子でした。

今回は珍しく 12 名全員が後ろのサロン形式のシートに座り、歌こそないものの「飲めや食べろや…」の大宴会になったことは想像に難くありません。バスは中央道を南下し最初の目的地である馬籠宿へと向かいます。天気は雲一つない素晴らしい秋晴れ！小黒川 PA を出発すると車窓から左に赤石山脈(南アルプス)、雪を冠した甲斐駒ヶ岳、鋸岳、仙丈ヶ岳、塩見岳、赤石岳が右の木曾山脈(中央アルプス)にも同様に雪を冠した宝剣岳、空木岳、越百岳が聳えています。山岳友の会らしくこの冠雪の素晴らしい山々も酒の摘みとなり話も随分盛り上がりあっという間に網掛、恵那山トンネルを通過して岐阜県に突入。中津川 IC を降りて、「若菜集」「破戒」「夜明け前」等の代表作を著した日本を代表する文豪島崎藤村(しまざきとうそん(悲しいかな…近年は「**しまざきふじむら**」と読む若者のなんと多いことか…本当の話です。))の故郷「血につながるふるさと、心につながるふるさと、言葉につながるふるさと」である「馬籠宿」に到着。一時間程度夫々に石畳の坂道である馬籠宿を散策、私は帰り際に、平成 7～8 年に南木曾森林管理署で勤務していた時代に大変お世話になった建設会社の社長さん宅に、ご挨拶をと思い自宅のお土産屋さんへ寄りましたが、娘さんから歯医者さんへ出掛けているとのことで残念ながら不在でお会いできませんでした。木工品を販売しているお店でイチイ(アララギ、オンコ)で作られた数珠を購入しました。皆さん夫々買い物等をしてからバスに戻り昼食場所である恵那峡湖楽園へと向かいました。途中で急遽、運転手さんにご無理を御願いし岐阜県はもとより全国的にも有名な「豆乃匠 中島豆腐(最近では食事も始めました。)」へ寄っていただきました。車内での酒のオツマミに最適かと思い、皆さんに一度食していただく…清水の舞台から飛び降りる覚悟で豆腐の最上級「醍醐:だいが(伊勢二見ののにがりを使用):500g: ¥1,644」と一般的な「御豆腐:500g: ¥951」を購入予定でしたが残念ながら「醍醐」は既に完売。結局、御豆腐と柚子豆腐:500g: ¥1,350 の 2 種類を購入。一度食せば解るのですが…たかが豆腐、されど豆腐！全国各地の名立たる高級料亭でも味わえないほどのクリーミーな豆腐。何名かの方も購入されておりましたが余りの高額さにびっくりさ

れていました。ちょっと寄り道をしましたが、後の車内での宴できっと皆さんが満足するであろう「美味しい豆腐」です。恵那峡に近づくと車窓から見えてきた「紅岩(べにいわ)」を見て久雄さんが「あかいわ…、あれがあかいわ」と連呼していましたが……正式名称は「紅岩:べにいわ」です。岐阜県の天然記念物で高さ27.3m、幅18.2mの圧巻な岩で登ることもできますが…今回は立寄りませんでした。※「紅岩」のオレンジ色の正体は「ダイダイゴケ」という一種の生物で「コケ」という名前が付けられています。地衣類の仲間です。



程なくして恵那峡の湖畔にある「季節郷土料理:湖楽園」に到着。此処でもまた一杯飲みながら美味しい昼食を取った後、乗船場で乗船記念の写真撮影(下船時に澤田さんが代表して購入してくれました。感謝、感謝!)をしてから奇岩の大パノラマクルージングが満喫できる高速ジェット遊覧船に乗りました。(小職は平成19年から3年間中津川市付知町にある東農森林管理署に勤務していましたが、在勤中に

この遊覧船に乗ることがなかったので、今回が初めての乗船となりました。思いのほか見所が沢山あって付知川の合流まで行けたので十分堪能できました。…こんなに楽しめるなら当時家族を連れてきてあげても良かったなあと思いつつ…!)

車内での飲酒と昼食時の適度なアルコールに加え、ほろ酔い状態で小春日和の心地よい暖かな陽気も加わり…両岸にそそり立つ軍艦岩、獅子岩、屏風岩等の説明を聞きながら暫しウトウトと夢心地となりました。往復約20km30分程の遊覧を終え船着き場に戻るとお土産店で買い物(私は帽子を、テッシーこと勅使河原さんは木刀を購入。外の皆さんは何を購入されたのでしょうか?)をしてからバスへと戻りました。車中では中島豆腐の御豆腐に皆さんクリーミーで美味しいと絶賛!(塩で食べていただきました。)柚子豆腐は翌日のお楽しみに…宴は延々と続きました。



バスは次の目的地である下呂市の野外博物館「下呂温泉合掌村」へと向かいました。

日本の原風景ともいえる美しい景観をなす合掌造りが評価され1976年に重要伝統的建造物群保存地区に認定され、1995年には五箇所山と共に白川郷(岐阜県大野郡白川村荻町地区)・五箇所山(富山県南砺市相倉、菅沼)の合掌造り集落としてユネスコの世界文化遺産に登録されました。この白川郷などから移築した合掌造り民家で集落を再現したのがこの「下呂温泉合掌村」博物館です。



村内には国指定重要有形民俗文化財の「旧大戸住宅」をはじめ10棟の合掌造りの民家があり、往時の生活を知ることのできる貴重な博物館です。皆さん夫々に展示されている住宅、民具、農具などを見て回りました。中でも皆さん一番関心を持って足を止めていたのが「円空館」でした。「円空」は江戸時代初期、全国各地を巡り生涯12万体の仏像を誓願したとされる遊行僧で、晩年に下呂で作った作品180体も確認されているとのこと。円空館にはそのうちの29体の円空仏と資料が展示されていました。

鉦とのみ彫りによる大胆かつ素朴で独特な作風を持った木彫りの仏像は、夫々が非常に親しみのある表情で微笑んでおり、慈愛に満ちていて誰もが心を惹きつけられ暫し見入っていました。また、写真撮影も可能で有難い配慮がされていました。

円空は僅か64歳で自ら食を絶ち、即身仏入定しています。生涯で想像を絶する12万体の神仏像を製作したとは俄かには信じ難く…10歳から掘り始めても54年間では年2,222体、1日当たり6体…余りにも眉唾物?否、詮索するのは止そう!ご利益のありそうな神仏像の沢山の写真を撮らせてもらいバスへ戻りました。

バスは程なくして本日の宿泊場所の「小川屋」に到着。館内の説明を聞いた後、夫々の部屋へと移動。本日も「軒」部屋は別。この部屋割りも近年定着し誠に有難い限りです。早速、長旅の疲れを癒しに温泉へ。ホテルには三か所のお風呂があり夫々に趣もあり十分堪能できました。流石に天下の名湯下呂温泉です。私は下呂温泉に入ると毎回の事ながら入浴後はツルツルとした肌触りになりました。えっ…！ツルツルにならなかったって？…矢張りお年を召したせいでしょうか？部屋に戻り夕食前に軽くビールで喉を潤し暫し歓談となりました。夕食時間も近づき、皆さん揃って夕食会場「味の里 せん田”」へ向かいました。「せん田”」は宿泊場所のホテルから徒歩 5 分ほどの湯の島地区の湯の街通り「白鷺の湯」の近くにあり、私が東濃（中津川市付知町）、木曾（木曾郡上松町）森林管理署勤務時代（平成 19～24 年）に



お世話になったお店で、地元で取れた新鮮な野菜、川魚、キノコ、飛騨牛等をメインとした伝統的な和食を提供するシンプルで落ち着いた雰囲気のお店です。宴会は勿論、ランチの飛騨牛まぶし丼、朴葉味噌ステーキ御膳なども有名です。本来、水曜日が定休日なのですが、相澤、渡邊の高校の大先輩でもある I さん（御年 80 歳で中津川市付知町の不動滝でお土産、食事、宿泊をそして下呂市内では二次会でお世話になる「スナック愛」を運営されています。）にも大変ご尽力をいただき、特別に「山岳友の会」の為に営業していただくことになりました。本当に感謝、感謝です。（勿論、出張で下呂市に行った際には、都度女将さんへの木曾の手土産をお持ちし、丁重にお礼をしていたことは言うまでもありません。）

宴会に先立ち、澤田さんから前月に亡くなられた「立花裕美子」さんの経緯について話があり、献杯をしてから楽しい宴会がスタートしました。車中でも昼食時にもかなり飲んで食べてきたはずですが…温泉に入り胃袋も随分落ち着いてきたせいかな…どうしてどうして結構飲めて食べられるものです。食前酒にはじまり、前菜、先附、蒸し物、煮物、松茸の土瓶蒸し、茶碗蒸し、天婦羅、飛騨牛（A5orA4？）のすき焼きにご飯、みそ汁、漬物…♫にデザートと十分過ぎるくらい堪能できました。女将さんに丁重にお礼を申し上げ、玄関前で記念撮影をしてから「せん田”」を後にし、下呂の街を散策、写真を撮りながら二次会場の「スナック愛」へ向かいました。

「スナック愛」は冒頭に書いた通り、平成 24 年度の准フォレスター研修（森林総合監理士：フォレスターを養成する研修）時に大変お世話になったスナックです。「愛」とは I 先輩の奥様愛子さんの「愛」です。これまた余談ですが、森林総合監理士（フォレスター）とは地域の森林、林業関係者と連携しながら、森林の整備・保全と林業の成長産業化に向けた取り組みを牽引する技術者です。平成 25 年度から国家試験が始まりました。因みに相澤、渡邊もこの難関？の資格を取得できたのも、楽しみである毎晩の晩酌を控えて昼夜の勉強は勿論のこと、きっとこの「スナック愛」での幅広い人事交流と飲酒の賜物であることに疑う余地はありません。

今回、二次会でのスナック。おそらく参加者全員で出掛けたのは「友の会」では初めての事ではないでしょうか？私が入会させていただいた平成 25 年 5 月以降で現地研修会時に「スナック」へ行った記憶は全くありませんので…！

ママさんからの暖かい出迎え後ボックス席へ…時間がまだ早いせいか、お客さんは友の会メンバー 12 名の貸し切り状態。乾杯をした後、いよいよカラオケがスタートしました。先陣を切って鈴木教授、ゆり（高岡）さん、テッシー（勅使河原）さん、横田さん、ふーみん（竹原）さん、久雄さん…皆さん思い思いの歌を次から次へと熱唱されました。それにしても皆さんとても上手でしたね。私も皆さんに負けじと初披露で何曲か歌わせていただきました。滝沢さんからは「なべちゃん…カラオケ用の声は何時もの声とは全く違うねえ…絶対にカラオケ用の声を作って歌っているよねえ…」とからかわれましたが…何も声は作ってはおりませんし、何時も通り自然体の声ですよ…！

バスの宴の中で久雄さんから臨時の高額ボーナスが初めて出たとの話があり、今回高価

なボトルまで入れていただき、カラオケと共に盛り上げていただきました。とんだ散財をさせてしまいましたが、きっと良いことがある筈です。今回のウイスキーの味は格別で従来の味に比べて数倍も美味しく感じたのは私だけではありませんでした。勿論、飲み切れずに残った分は私が責任を持って出張の際に処理させていただきます。大変有り難うございました。カラオケで随分盛り上がっている頃、旅行客らしき団体さんが入ってきました。併せて宴会を終えたコンパニオンのお姉さん方も見えたことからお店も大変賑やかになり、更にカラオケでも盛り上がりました。1 時間半ほど飲んで、歌って十分堪能させていただきました。会員の皆さんの歌を聞かせていただいたのは今回が初めてで、思いのほか皆さんが「カラオケ好き！」と新たな一面を垣間見ることもできました。宿泊場所の選定、夕食会場の営業日変更、スナック愛でのカラオケ三昧に至るまで！先輩、奥様大変なお力添えとご尽力をいただき誠に有り難うございました。外で記念撮影をしてから酔いを醒ましながらか徒歩で 22 時過ぎにはお宿へ戻りました。まだまだ飲み足りずに引き続き部屋飲みをされた方々、お風呂に行かれた方もありましたが、我が部屋は飲み疲れのせいかな…静かに早目の就寝となりました。

二日目 11月9日(木曜日) 天候: 快晴

昨夜も早く就寝したため快眠でき、ほぼ何時も通り 5 時頃に目覚めるも、携帯電話でニュース見ながら暫く布団の中に…5 時半過ぎに一風呂浴びに温泉へ。入浴後は部屋で朝食前の食前酒。軽くビールで喉を潤します。朝食までは暫し歓談。朝の一杯は旅行ならではの至福の一時です。

7時、いよいよお楽しみの朝食バイキングのスタートです。手作りの総菜を中心に美味しそうな食材が沢山所狭しと並んでいました。出張の際には何処の宿でも結構提供されている「飛騨高山ラーメン」は残念ながらありませんでした。(昼食が丸明の焼肉なので高山ラーメンは食せないと思っていたので…!) 食前酒のビールでほろ酔い状態のせいかな何時もより品数を少なく、総菜、野菜類とデザートが多めに、ご飯にみそ汁そしてメに飛騨牛カレーを美味しく完食しました。



玄関で集合写真を撮影した後、本日の最初の見学場所である高山市の「高山陣屋」に向けて R41 号線を北上しました。下呂市から飛騨高山市までは 50 数km、所要時間は 1 時間 15 分程度です。朝食後それ程時間が経ってはいませんが、相変わらずバスの中ではビールにワイン、日本酒…楽しい宴となりました。1 時間半ほどして高山市へ到着すると、新型コロナの規制明けの影響でしょうか、平日にもかかわらず海外から多くの観光客で賑やかな状況でした。駐車場から徒歩で高山市政記念館(旧高山町役場として使用)前を通って宮川を渡り高山陣屋へと移動、円安の影響もありますが、日本人観光客よりはるかにインバウンドの方が多く来られています。陣屋朝市で下見をしてから陣屋の門前で集合写真を撮り、いよいよ陣屋見学となりました。

「高山陣屋」とは

江戸時代前期、飛騨国は飛騨高山藩主金森氏の統治下にある下屋敷でしたが、幕府が飛騨を直轄領として以降、伊奈忠篤らによって整備され、代官所として用いられ後に郡代役所となりました。明治維新後は筑摩県の高山出張所庁舎(のち岐阜県高山支庁)として用いられるようになり、その後郡代役所となりました。1929 年(昭和 4 年)に国の史跡に指定され、様々な公共機関の事務所として利用され続けました。戦後も県事務所として利用されていましたが、県事務所の移転後に、現存する唯一の陣屋であることから文化財と



して保存する方針が示されました。1830年(天保元年)の絵図を基に26年の歳月、約20億円を掛けて1996年(平成8年)3月に再現されました。江戸時代の空気を感じる日本では唯一主要な建物が現存する代官・郡代所跡です。



私は職業柄、高山陣屋とはご縁があつて此処へは何回も上司等を案内して訪れています。(平成8年～18年木材の販売を担っていた当時に屋根板に使用されている木曾五木の1つであるネズコ(別名:黒檜クロビークロベ)を毎年販売していました。)



毎回陣屋の担当者の方々から多くの説明を聞かせていただいているので、「門前の小僧習わぬ経を読む！」の如く多少の知識は身に付き、皆さんにも要所要所で説明をしながらの見学となりました。

中でも見所を何点かご紹介します。

①「青海波:せいかいは」

正面玄関の大床(大きな床の間)に描かれている「青海波」は、海の波を模した「吉祥模様」で江戸時代に流行した縁起物の意匠。無限に広がる波の模様には、未来永劫続く繁栄と平和への願いが込められていると言われています。随分古くなりますが、NHKで放映された「コメディお江戸でござる」のオープニングテーマで使用されていました。見たことがあるという方も多いことと思います。

②「真向兎:まむかうさぎ」

部屋の長押(なげし=日本建築によく見られる部材で柱面に水平に打ち付けて、柱を連結する材)などに打ち付けた釘の頭を隠す為の装飾。兎は子供を沢山産むことから縁起の良い意匠(デザイン)。火災から建物を守ってくれる魔よけの意味合いがあると言われています。何故、高山陣屋の意匠として採用されたのかは解っていないとのこと。

③「嵐山の間:あらしやまのみま」

江戸から派遣された代官や郡代の家族が居住した役宅。代官・郡代の日常生活に使われた部屋で奥には茶室も併設。因みに「嵐山の間」は別名で、本来は御居間と呼ばれています。私はこの間から見る庭が一番好きです。



④「大広間:おおひろま」

年始をはじめとした重要な年中行事などで使用された書院造の部屋で、49畳敷きの3部屋続きで高山陣屋内で最大の広さを誇ります。縁側を通して季節ごとに変わる景色を一望できます。

⑤「御白州:おしらす」

取り調べを行ったり、判決を言い渡した場所。裁判における法廷の役割を果たした部屋とされ、お白州は陣屋内に2ヶ所あります。一方は村からの訴えや願い事を受ける、今で言うところの役所の窓口となる場所で、もう一方は罪を犯した人の取り調べや裁きが行われた、所謂法廷の役割を果たしました。江戸時代の取り調べは、自白が重視されていました。そのため、自白が得られない場合には、厳しい拷問が課される場合があったようです。展示されている拷問道具は人々を威圧する為に置かれていたと考えられています。実際には牢屋内で行われていたとのこと。

⑥「御蔵:おんくら」

近隣の村から納められて年貢米を収納する米蔵。現存する江戸時代の米蔵としては全国でも最古で最大級を誇る。特徴的な板葺き屋根は、釘を使わずに板を木と棒と石で押さえる「石置長樽葺き(いしおきなぐれぶき)」と言う葺き方を採用しています。

材料には油分を多く含み水をはじく利点を活かし、ヒノキ科ネズコが利用されていましたが、最近では生産量の減少に伴いサワラ、スギも使用しています。

私は、陣屋での見学を終え、先に下見をしておいた陣屋朝市で漬物、大蒜を購入してからバスに戻り本日 2 か所目の見学地である「高山屋台会館」へ向かいました。

「高山屋台会館」

毎年春(4月14・15日)に「日枝神社」で開催、秋(10月9・10日)に「桜山八幡宮」で開催される高山祭があります。高山祭は日本三大美祭(日本三大曳山祭:①京都市の祇園祭②埼玉県秩父市の秩父夜祭③岐阜県高山市の高山祭)の一つでその立役者は何と言っても「屋台」です。絢爛豪華な姿は「日光東照宮の陽明門」になぞられて「動く陽明門」と言われています。木工、塗り、彫刻、外装品など 1300 年の歴史を持つ飛騨の匠の技が一台の屋台に集結されています。飛騨の豊富な森林資源で財をなした旦那衆が、資金を出して競い合うようにして屋台づくりに心血を注ぎ込んだと言われています。春に 12 基、秋に 11 基、合計 23 基の夫々全く違う屋台が高山の街を華やかに彩ります。



桜山八幡宮境内にある「高山屋台会館」では、秋の高山祭で曳出される 11 基の実物の屋台(国指定重要有形文化財)を常時 4 台を、年に 3 回入れ替えて展示しています。



屋台会館に向かう参道には大きな鳥居があり、鳥居の構造や太さ大きさ等の説明をテッシー(勅使河原さん)がしてくれました。元石屋さんだけあって非常に詳しく解り易い説明をしてもらいました。暫く参道を歩き皆で揃って記念撮影をしてから入館。一人一人に音声ガイドの機器が手渡され、展示物の番号の順路に沿って説明を聞きながら、絢爛豪華な屋

台に見入っていました。1 時間ほどの見学を終え昼食会場「丸明」へ向かいました。バスは程なくして到着。

流石に飛騨を代表する有名店です。丁度お昼も重なり平日にもかかわらず、入り口では順番を待つ方々大勢並んでいました。以前の白山の帰りの宴会を思い出します。友の会は朝日観光さんの予約のお陰で奥の座敷へと通されました。6 名 2 テーブルに分かれいよいよ待ちに待った飛騨牛 A5 の昼食がスタートです。私達のテーブルは鈴木教授、テッシー(勅使河原)さん、ゆり(高岡)さん、フーミン(竹原)、ミーコ(出澤)さんに私。既に 3 名で 1 皿の盛り合わせ(ロース、カルビ 18 枚 6 切れ/1 人、椎茸、人参、玉葱、南瓜、しし唐)、サラダにローストビーフ、先附(ゴマ豆腐、タケノコの煮物、ゴボウの肉巻き)キムチがテーブルに並べられています。…早速生ビールで乾杯となりました。

流石に A5 の牛だけあって脂のり具合が良く一人で 6 切れは結構大変でした。更にテッシー(勅使河原)さんが夫々一切れで十分とのことで何とも美味しいのですが…いくら飽食の時代とは言え残すわけにはいきません。皆で頑張っって何とか完食となりました。帰り際に仲居さんに美味しかった旨のお礼を言って今日のコースのお値段を聞いたところ 3,250 円(飲み代別)とのことでした。何とも金額以上に豪華な昼食となりました。当分、牛肉は食べなくても大丈夫そうです。

皆さん昼食後は、併設されている精肉店で極上の飛騨牛肉等沢山を購入していました。私は飛騨牛のモツを購入予定で楽しみにしていましたが…既に完売とのことで敢え無く断念しました。(私のお勧めは下呂市萩原の肉店「天狗」の飛騨牛のモツもとても美味しいので、機会があれば是非とも一度食してみてください。)

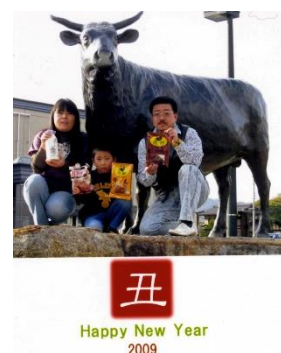
「飛騨牛(ひだぎゅう、ひだうし)」とは…!

岐阜県で肥育される黒毛和牛の牛肉。飛騨牛(ひだうし)は食肉になった後は「ひだぎゅう」と呼び、食肉前の牛、牛を生むための母牛は(繁殖牛)及び父牛(種雄牛)は「ひだうし」と呼びます。

飛騨牛の歴史は、昭和 56 年、「安福号:やすふくごう:名号「福美」(但馬牛の産地である兵庫県美方郡村岡町(現香美町)熊波の井上七五三松方生まれ)」と言う一頭の種雄牛を岐

岐阜肉用牛試験場が購入したことから始まります。以来、県を中心とする行政と生産農家、肥育農家、JAを始めとする流通業者などの関連業界・業者らが力を合わせ、より質のいい牛肉の育成に取り組んできました。かつては「安福号」の顕彰像が「丸明」のお店の前(ガラスケースに入れた立派な顕彰像でした。)と飛騨森林管理署近くの公園に飾られていましたが…丸明の像は飛騨牛の偽装事件(岐阜県養老町の食肉卸販売業「丸明」が「岐阜県産和牛」などと表示するよう定められた低い等級の牛肉を、ブランド和牛「飛騨牛」と偽装して販売していた疑いが発覚)後、暫く経ってからこの像が撤去されてしまいました。(あの顕彰像は何処に行ったのだろうか？仲居さんに聞いてくればよかった！)また、もう一方の公園に飾られていた像かは定かではありませんが、市内冬頭町の JA 飛騨本店の敷地内にあります。(東濃森林管理署勤務時の 2009 年平成 21 年丑年の年賀状に使用しました。)その他にも市内の岐阜県畜産研究所飛騨牛研究部にも設置されていますので、機会があったら見てくださいます。

「飛騨牛」は、5 年に一度開催される和牛のオリンピック「第 8 回(平成 14 年)及び第 9 回(平成 19 年)全国和牛能力共進会」に於いて最優秀枝肉賞を連続受賞した、岐阜県が誇る最高級黒毛和牛。牛枝肉格付けで 5 等級の割合が全国平均をはるかに上回り、網目のような霜降りが多く美しい桜色をしています。筋肉の繊維が細かく、食感が柔らかいのも特徴でくどさや臭みが一切なく、芳醇な香りで旨味と甘みを感じられ後味もさっぱりしているため脂っぽいひつこさもなく、その美味しさは「芸術品」と言われて飛騨牛ブランドとして全国に知れ渡っています。



バスに乗り込み運転されない方はまた一杯が始まりました。飛騨牛でお腹一杯の状況にもかかわらず、昨日中島豆腐店で購入した「柚子豆腐」を食べましたが、これまた大好評で皆さん喜んでいただきました。

バスは高山から R361 号を開田高原に向けて順調に進み、途中、道の駅「飛騨たかね工房」によりトイレ休憩と最後のお土産を買い、1 時間半程で開田高原へ更に木曾町、権兵衛峠を越えて小黒川 PA に到着となり、木曾組は此処で皆さんに別れを告げ…今バスで来たばかりの道を木曾へと戻りました。

山に登らない初めての現地研修会となりました。今回も「よく飲み…よく食べ…大いに楽しめた 2 日間でした。」参加された皆さん大変お疲れさまでした。

レポーター:ペンネーム:瀬祭036(DASSAI036)ことドラエモン 渡邊 修

2024 年度通常総会・第 24 回憧憬の森講演会報告

小林 久雄

4 月 7 日、ようやく桜の花がほころび始めた暖かい春の日に、2024 年度の山岳友の会総会と憧憬の森講演会、そして会員交流会を開催しました。

新会員の吉田さんや、特任助教として信州大学に復帰された西村さんなど多くの参加者の中、新年度スタートにふさわしい総会を開催。第 70 回現地研修会から始まる 14 年目の事業計画ほかを、坂本議長のもとで審議しました。

今年度の事業として、昨年の下呂温泉研修の際に話題となった日本三名泉(草津・有馬)やスパリゾートハワイアンズに下仁田温泉、奥日光湯元温泉などの温泉ツアーを多数計画しています。

続いては憧憬の森講演会で、飛騨高山高校の鈴木啓久先生から山岳領域に生息するトビケラについてお話をお聞きしました。高校教諭を退職して東城研で 3 年間奮闘したお話でした。

高山帯に生息するトビケラが「スカイアイランド」で夏眠することや、ミ



トコンドリア DNA 解析による遺伝子分化などを中心に、何と当日乗鞍高原の池から採取したトビケラの幼虫を持参してのお話、会員から多数の質問が挙がり、大いに盛り上がりました。

その後、凡蔵に会場を移し、多数の参加で盛大に会員交流会が行われ、花見気分で大いに語り親交を深めました。

今年度も多くの参加者で楽しい現地研修になることを期待します。

総会資料を添付しておりますので(15 ページより)、ご覧ください。
なお、監査により、収支決算について適正に処理が行われていることが確認されました。



追悼

「立花裕美子さんを偲んで…!!」

楽しい数々の思い出を有り難う!! 心からご冥福をお祈りいたします。

渡邊 修

立花裕美子さんの訃報を聞いたのは 10 月 5 日。王滝村鳳泉寺の檀家による「京都大本山妙心寺」団参のバスの中での事でした。

王滝組 3 人衆(澤田義幸、立花裕美子、渡邊修)の一人。あまりにも辛く哀しく胸が痛みます。

8 月頃だったでしょうか、体調を崩されて入院していると聞いていたのですが…お見舞いにも行かれず心配しておりました。

長崎県佐世保市で生まれ育ち、縁あって王滝村に居住し結婚、出産、子育て、村議会議員(見事初挑戦の選挙でトップ当選)、公民館長、火山マイスター等王滝村に真に根差した若きリーダー的な牽引役として、何事に対しても人一倍熱心にまた一生懸命頑張って活動して来られました。

私が「山岳友の会」に入会したのは 2013 年(平成 25 年)5 月。既にその時には澤田義幸君、立花裕美子さんの両名は入会されておりました。

4 月 1 日の人事異動により中信森林管理署に赴任し、仕事でのご縁もあって入会させていただきました。二人からは度々「山岳友の会」の活動内容は聞いておりましたので全国各地の山に行けること、気の置けない素晴らしい会員が多いことで共通の話題ができたことを大変嬉しくまた有難く思いました。

以来、現地研修会等へは案内の前に事前打合せをし、一緒に参加させていただき楽しく懐かしい思い出しか残っていません。

一昨年前までは王滝村恒例の元旦ウォーキング後に、立花さんのお宅で美味しいお酒に旦那さんの手料理(勿論、裕美子さんの手料理も含め)に舌鼓を打ち、気の置けない有志等で和気藹々の新年会を行っていました。

立花さんは AC(アルコール)が結構入って陽気になると「なべさん! 私は学校の先生になるのが夢だったの! 今は全然違うけどね! 山登りは自分に鞭打ってハアハア言っているのが大好きなの!」と常々言っていました。現地研修会の





山行では何時も山頂一番乗り！山口会長、鈴木教授曰く「目の前に人がいたら追い抜く！」をモットーに正に有言実行でした。そんな立花さんが最後の現地研修会への参加となった6月7～8日の第63回現地研修会「酒井さんと歩く筑波山、そして袋田の滝」では何時にもなく元気がないので何気なくそっと尋ねたところ「なべさん！最近体調も余り良くないし結構きついので筑波山は歩かずケーブルカーで行くよ！」とのこと。人一倍気丈で頑張り屋の立花さんの事だから、かなり無理して今回の現地研修会に参加されているんだなあと感じていました。それから4か月も経たないうちに亡くなられてしまうとは誰が予測したことでしょうか。

今は大好きだった百名山の一座、清き姿の霊峰。我が御嶽山（おやま）はじめ、未だ未だ登っていない全国各地の山々に登ることも叶わず！残念無念！余りにも無常なりです！

数々ある山行でも私の心に一番残っている面白可笑しかったエピソードは、2017年（平成29年）8月28～30日の第32回現地研修会「東北の霊峰・出羽三山を巡る旅」での梯子場での出来事。漫才コンビを思わせるほどのお笑いの数々。今思い出しただけでも笑ってしまいますし、その後様々な場面でこのシーンが再現され、事あるごとに立花さんが滝沢さんをからかってきました。参加されその場面にいた人は鮮明に覚えておられることと思いますし、忘れ難くたまらない名言…？記憶になっていることと思います。

滝沢さんが高い所や梯子が嫌いなのは会員周知の事実。（焼岳も梯子場を避け途中で引き返したり、中の湯ルートを選択する等…嫌なものは嫌なのです！）

湯殿山だったでしょうか？長い梯子場に差し掛かった際に、躊躇している滝沢さんに向かっての一言！「滝さん！まるで生まれたてのバンビ（ニホンジカの子）みたいに何震えているのよ！早く登って…早く降りて！」それ以来二人は名コンビ！記念写真の際にもまた、宴会の席のくじ引きでも、滝沢さんの隣に立花さんが行くと滝沢さんは天敵の如く、俺の傍に来るな！誰かに代わってもらってあっちに行ってくれ！を連呼していました。勿論、息の合った大人の二人の会話。お茶目なウィットに富んだ場面は、もう二度と見られなくなりました。

令和5年1月の元旦ウォーキングの際には「なべさん！今日は家での新年会はやらないけどいいかなあ…？3月末で公民館長も辞めるから。仕事は楽しいし、やり甲斐もあるので続けたいけど…二人目の里親の関係もあるし…ちょっと治療にも専念したいし！」人一倍頑張り屋の立花さんの言葉を聞いて、「兎に角早く治療に専念して村議、公民館長で培った知見、経験を活かして持ち前の統率力で村の為に何かやってね。義幸君も俺らも応援するからね！」それも叶わぬものとなり、山岳友の会は基より王滝村にとっても大きな損失になりました。

「山岳友の会」に縁あって出逢い入会、多くの素晴らしき仲間と集い…大いに「よく遊び、よく遊べ、そしてよく飲み、よく飲め」をモットーに面白可笑しく楽しみ、決して忘れることのできない数々の思い出を残したまま63歳での余りにも若くそして早過ぎる旅立ち。まさかこんな別れになるとは！何とも悔やまれます。

「形あるものはいつか壊れ、命あるものはいつかは終わる。」世の常なれど…！

「立花裕美子さん！！」貴女の63年間に残された数々の功績、思い出は私達「山岳友の会」会員の心の中に決して色褪せることなく永遠に残り続けることと確信しております。

最後に「本当に最後までよく頑張った！！今まで心に残る沢山の楽しい思い出を有り難う！…感謝、感謝！」

心安らかに眠りください。合掌

レポーター：ペンネーム：瀬祭036(DASSAI036)ことドラエモン 渡邊 修

〈2024 年度通常総会資料〉

2023 年度友の会事業報告

設立 13 年目の 2023 年度は、事業を概ね計画通りに開催することができました。
以下、主な事業について報告します。

○総会

通常総会 4 月 1 日(土) 松本市駅前会館 35 名参加 (委任状 47 通)

○運営委員会

第 18 回運営委員会 3 月 23 日(土) やそじ 8 名参加

○憧憬の森講演会

第 22 回憧憬の森講演会 4 月 1 日(土) 松本駅前会館 35 名参加

「飛行艇に魅せられて…」

講師：坂本 孝 氏 (本会会員)

第 23 回憧憬の森講演会 12 月 2 日(土) 松本駅前会館 36 名参加

「黒百合ヒュッテ物語」

講師：米川 岳樹 氏 (黒百合ヒュッテ)

○現地研修会

第 63 回現地研修会 6 月 7 日－8 日「酒井さんと歩く筑波山、そして袋田の滝」12 名参加

第 64 回現地研修会 8 月 30 日－9 月 1 日「蔵王山と弥彦山を歩き、蔵王温泉大露天風呂と
瀬波温泉」12 名参加

第 65 回現地研修会 9 月 20 日－21 日「高岡&澤田両会員の二の池ヒュッテに泊まる御嶽山」
11 名参加

第 66 回現地研修会 10 月 16 日－17 日「中村梢会員の蝶ヶ岳ヒュッテに泊まろう」
15 名参加

第 67 回現地研修会 11 月 8 日－9 日「恵那峡と高山を巡る下呂温泉への旅」12 名参加

第 68 回現地研修会 1 月 24 日－25 日「美ヶ原 冬空満喫ツアー」15 名参加

第 69 回現地研修会 2 月 29 日「冬の鉢伏山登山」4 名参加

○会員集会 12 月 2 日(土) 松本駅前会館 36 名参加

○第 28 回上高地談話会 (第 11 回涸沢談話会) 7 月 3 日－4 日 涸沢ヒュッテ 22 名参加

「長野県内の山岳遭難の現状」

講師：岸本 俊朗 氏 (長野県警察山岳遭難救助隊員)

○会報の発行 4 回発行 (4 月 10 日、8 月 7 日、10 月 30 日、1 月 10 日)

○上高地ステーションの整備、随時

2023年度 友の会 会計報告

(期間:2023年4月1日 - 2024年3月31日)

収入		支出	
前期繰越金	¥682,445 …①	管理費 事務局員手当	¥365,750
会費 正会員	78名 ¥78,000	DM便・郵便	¥67,481
家族会員	3家族 ¥6,000	管理費 計	¥433,231 …⑤
学生会員	4名 ¥400	事業費 現地研修会	¥2,815,358
賛助会員	8口 ¥50,000	酒沢談話会	¥304,665
会員(過年度)	¥2,000	第23回憧憬の森講演会	¥37,432
年会費 計	¥136,400 …②	事業費 計	¥3,157,455 …⑥
事業費 現地研修会	¥2,794,197	会議費 総会会場使用料他	¥6,140
酒沢談話会	¥304,500	会議費 計	¥6,140 …⑦
事業費 計	¥3,098,697 …③	その他 研修企画料等	¥125,684
収入合計 (①～③合計)	¥3,917,542 …④	上高地ST使用料(養魚池メンテナンス時)	¥7,000
		お土産代	¥9,522
		弔電、献花代	¥14,900
		その他 計	¥157,106 …⑧
		支出合計 (⑤～⑧合計)	¥3,753,932 …⑨
差引 残高	(④-⑨)	次期繰越金	
	¥163,610	次期以降会費	
	¥15,500	残高計	
	¥179,110		

2024 年度信州大学山岳友の会事業計画

基本方針

友の会は設立 14 年目を迎えますが、次の基本事項に基づき事業を計画します。

1. 信州大学の山岳研究（信州山の環境研究センター）を支援します。
2. 会員相互の親睦と、心を豊かにする講座・研修会並びに講演会を開催します。
3. 大学と市民を結ぶ取り組みを考えます。
4. 会員を増やし、会の活動を充実します。
5. 会報は、会員の協力をいただき 4 回発行します。

事業計画（案）

期 日	内容等	備考(場所等)
4 月 7 日(日)	通常総会 憧憬の森講演会 「山岳に生息するエグリトビケラ類の系統進化と生態的特徴について」鈴木啓久氏（岐阜県立飛騨高山高校、本会会員）	松本駅前会館
6 月 20 日(木)～ 6 月 21 日(金) ※	第 70 回現地研修会「荒船山・妙義神社・下仁田温泉」 (※日程が変更となりました)	下仁田温泉
7 月 8 日(月)～ 7 月 9 日(火)	第 29 回上高地談話会（第 12 回涸沢談話会） 「山を歩いて半世紀」 中嶋 豊氏（山岳イラストレーター、本会会員）	涸沢ヒュッテ
8 月 29 日(木)～ 8 月 30 日(金)	第 71 回現地研修会「白根山と奥日光湯元温泉」	湯元温泉
10 月 10 日(木)～ 10 月 11 日(金)	第 72 回現地研修会「横手山と草津温泉（三名泉ふたつめ）」 三名泉ひとつめは、昨年の下呂温泉	草津温泉
11 月 8 日(金)～ 11 月 9 日(土)	第 73 回現地研修会「キャンプに招いた子供たちのふるさと飯館村を訪ねる（安達太良山と山津見神社）」	スパリゾート ハワイアンズ
12 月 14 日(土)	憧憬の森講演会「霊長類を追ってアフリカから信州へ」 松本卓也氏（信州大学理学部、本会会員）	松本駅前会館
2 月 26 日(水)～ 2 月 27 日(木)	第 74 回現地研修会 「六甲山・比叡山と有馬温泉（三名泉みつつめ）」	有馬温泉

2024年度 友の会 収支予算

収入の部

(円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	増 減	備 考
繰 越 金	163,610	682,445	△ 518,835	
会 費	136,400	136,400	0	正 会 員 : 79名 79,000 家族会員 : 3家族 6,000 学生会員 : 4名 400 賛助会員 : 8口 50,000 過年度会費 1,000
事業参加費	3,100,000	3,098,697	1,303	
雑 収 入	0	0	0	
計	3,400,010	3,917,542	△ 517,532	

支出の部

管 理 費	60,000	433,231	△ 373,231	メール便・消耗品 ほか
事 業 費	3,110,000	3,157,455	△ 47,455	現地研修会 ほか
会 議 費	10,000	6,140	3,860	総会
雑 費	144,000	157,106	△ 13,106	研修企画料、上高地ST使用料 ほか
予 備 費	76,010	163,610	△ 87,600	残金は翌年度へ繰り越し
計	3,400,010	3,917,542	△ 517,532	

信州大学山岳友の会会報 第51号
 発行日: 2024年4月18日
 発行: 信州大学山岳友の会
 〒390-8621長野県松本市旭3-1-1
 信州大学山岳友の会事務局
 TEL: 0263-37-3332
 FAX: 0263-37-2438
 E-mail: suims@shinshu-u.ac.jp